

吹田市名誉市民候補者 検討資料

| | |
|------------------|---|
| (1) 候補者氏名 | 吉野 彰 |
| (2) 生年月日 | 昭和 23 年 (1949 年) 1 月 30 日 |
| (3) 現住所 | 神奈川県藤沢市 |
| (4) 功績の内容 | 昭和 58 年 (1983 年) にリチウムイオン電池を試作し、充放電可能とする技術を初めて実証。リチウムイオン電池は小型でも高い電圧が得られることから、スマートフォンなどの小型携帯電子機器に欠かせない電源となったほか電気自動車にも搭載されるなど、環境に配慮しながらも、社会の利便性を高める基盤を築いた。このことにより、令和元年 (2019 年) 12 月 10 日にノーベル化学賞受賞した。 |
| (5) 本市との関わり | 吹田市出生 吹田市立千里第二小学校 卒業 吹田市立第一中学校 卒業 |
| (6) 名誉市民の基準の該当状況 | 上記 (4) (5) が新聞、TV など報道等を通じて認知された。 更に、小学校の先生が薦めてくれたマイケル・ファラデーの「ロウソクの科学」をきっかけに化学に興味を持ち、好奇心あふれるまま「世界の不思議」を探る子供時代を過ごした、というエピソードを紹介しており、子供時代の出来事が吉野氏の研究の礎となったことも広く市民から周知される事実となった。これらのことから、本市の名声を高めるとともに、広く市民から深く尊敬されることとなったため、吹田市名誉市民候補者として推薦するもの。 |

経歴

| | | |
|------------------|------|--|
| 昭和 35 年 (1960 年) | 3 月 | 吹田市立千里第二小学校 卒業 |
| 昭和 38 年 (1963 年) | 3 月 | 吹田市立第一中学校 卒業 |
| 昭和 41 年 (1966 年) | 3 月 | 大阪府立北野高校 卒業 |
| 昭和 45 年 (1970 年) | 3 月 | 京都大学工学部石油化学科 卒業 |
| 昭和 47 年 (1972 年) | 3 月 | 京都大学大学院工学研究科石油化学専攻修士課程 修了 |
| 昭和 47 年 (1972 年) | 4 月 | 旭化成工業株式会社 (現旭化成株式会社) 入社 |
| 平成 29 年 (2017 年) | 7 月 | 名城大学大学院理工学研究科 教授 |
| 平成 29 年 (2017 年) | 10 月 | 旭化成株式会社 名誉フェロー |
| 令和元年 (2019 年) | 12 月 | 九州大学 荣誉教授 |
| 令和 2 年 (2020 年) | 1 月 | (国研) 産業技術総合研究所フェロー、兼 エネルギー・環境領域 ゼロエミッション国際共同研究センター長 |
| 令和 2 年 (2020 年) | 2 月 | 名城大学 特別荣誉教授 |
| 令和 2 年 (2020 年) | 12 月 | 日本学士院 会員 |

主な受賞歴（一部抜粋）

| | | |
|-----------------|------|---|
| 平成 15 年（2003 年） | 4 月 | 文部科学省「文部科学大臣賞 化学技術功労者」 |
| 平成 16 年（2004 年） | 4 月 | 日本国「紫綬褒章」 |
| 平成 24 年（2012 年） | 6 月 | 米国電気電子工学会「IEEE Medal For Environmental And Safety Technologies」 |
| 平成 25 年（2013 年） | 6 月 | ロシア「The Global Energy Prize」 |
| 平成 26 年（2014 年） | 2 月 | 全米技術アカデミー「The Charles Stark Draper Prize」 |
| 平成 30 年（2018 年） | 4 月 | （公財）国際科学技術財団「Japan Prize（日本国際賞）」 |
| 令和元年（2019 年） | 6 月 | 欧州特許庁「欧州発明家賞」 |
| 令和元年（2019 年） | 11 月 | 日本国「文化勲章」「文化功労者」 |
| 令和元年（2019 年） | 12 月 | スウェーデン王立科学アカデミーノーベル化学賞 |